



賀正

中之島こゝろ

[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
発行 學塾・中之島事務局

人間学塾
第88講

「国家百年の計」

上甲 先生



■ 志の三条件

歳をとるということは大切なことです。もちろん体は衰えますが、精神的には円熟し完成されてゆくことだと感じています。富士山の登山に例えれば、頂上を百歳とするならば、八十歳は八合目、二十代の若者は一合目です。二合目では殆ど下界は見えない。世間は見えないが体力に任せてしっかりと歩かない時期でしょう。二合目を歩く人に七合目の話をしたところで通じない。歳をとる値打ちはそこにあります。料理研究家の辰巳芳子先生は「私が本当のことを解りはじめたのは八十代だ」と言われました。歳をとるといことは本当のことを解るためだと思います。

小島直記先生のご著書『人生まだ七十の坂』という古い本を今一度開いてみると、その歳を迎えた私には、かつてとはまた違い生き生きと先生のメッセージが響いてきます。

先生は「志の三つの条件」を繰り返して説明されています。この三つが揃ったときに志というものが存在するのだ、と言われる。

- 一、人生のテーマを持つ
- 二、生きる原理原則を持つ
- 三、言行一致

長年お付き合いのある鍵山秀三郎さんは①人生のテーマは一貫して「世の中の荒みをなくすこと」です。お掃除はその方法です。②原理原則は「凡事徹底」です。そしてその通り実行なさっておられる③言行一致です。松下幸之助もまた、①人生のテーマは「世界から貧困をなくす」。幸之助は三〇年間「素直になりたい」と祈り続けました。②原理原則は「素直」です。そしてその通りに実行したから多

くの人から尊敬をされた。鍵山さんも幸之助にもこの志の三条件に当てはまっているのです。

■ 経営とは

私の人生のテーマは「国家百年の計」と決めました。松下幸之助は八四歳にして、松下政経塾を作りました。当時は五年制ですから五年後には自分がどうなるかも解らない。四十代の私にはその思いが解りかねたものの、今は身に沁みて解る。これからの日本を考えたときに、大変な危機感を幸之助は持ったのです。自分の努力の結果をこの眼で見届けることはできなくても本気になれるかどうか。これこそが志です。かつて私は幸之助に問いました。日本の政治のどこが悪いのか？答は一言「日本の政治には経営が無い」。

経営とは人間の全ての営みを指す言葉です。経営にも三つの条件があります。

- ①将来のあるべき姿を指し示す。(理想)
- ②実現の段取りを考える。(実現)
- ③実行に入る。(現実)

この三つが揃って「経営」が成り立つ。理想を持って、実現のシナリオを考え、現実から行動を起こすということなのです。

人生もまた経営です。その自覚があるかどうか。五年後十年後こういう人間になりたい、こういう生き方をしたい、という「あるべき姿」を持たないと人生経営は倒れてしまう。地域もまた経営であり、そして国家も経営です。

国家経営の一番の問題はなにか？①の国家のあるべき姿を示す政治家が一人もいないのです。これは言わば、我々は方向の定まらない船に乗っているよ



うなものです。しかしながらその危機感を感じている国民も殆どいない。

残念ながら国民にその意識はないが、日本の国力はどんどん衰えていっています。例えば対馬の韓国化です。対馬のホテル、レストラン等々殆どの施設が韓国に買われています。対馬だけではなく、北海道・東京・大阪・あらゆるところで「日本買い」が進んでいる。日本にして日本にあらずの地が増えているのです。世界中で国土を他国に自由に売れるのは日本だけです。目先の損得で日本を売ってしまうこの現実。日本人はこの現実に対する認識を持っているかどうか。我々はこの先、自分のことではなくこの国をどうしてゆくのかということを考えないと極めて厳しい状況になってゆくのではないかと思います。

■ 百年後の日本へ

このままでは松下幸之助に申し開きできない。松下政経塾出身の政治家を中心に、国家百年の計を持った政治家、政治を目指していきたい。それを人生の最後のテーマとしたい。その思いで国家百年の計の会を立ち上げました。人口のうちの1%の人が子々孫々のことを考えたなら、この国にも新しい風が吹くのではと期待しています。

奈良の吉野山は桜の名所です。修験道の開祖・役行者の言い伝えから御神木ともなっていた桜ですが、明治の始めに廃仏毀釈で全山の桜を伐ってしまったという危機の時代もありました。吉野の奥千本を訪ねたときに桜の若木が植わっておりました。その札を見ると「二二世紀吉野桜を愛でる会」とある。

多くの人は自分が桜を見ることには熱心なものです。百年後の子孫に桜を残そうとする人がいる、という大変感動を覚えました。自分の後の世の人の楽しみのために桜を植えていく…まさに志です。一人でもそういう思いを持つ人を増やしていくことが、私のこの国への貢献ではないかと思っています。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

□ 講師 上甲 晃先生

「国家百年の計」

【Aグループ】

① ひとつを励めばすべてが変わる。

② 無言の教育

③ 世の救いとなれ。

【Bグループ】

① ころざし三つの行動

② 経営の三条件

③ 生き様 魂の行動

【Cグループ】

① せめて私ぐらいは、と一人で行動する。

② 一つを励めばすべてが変わる。

③ 実践に重きをおく。

【Dグループ】

① 一つのことへ励む。

② ころざし三つの条件

③ 国家百年の計を意識する。



《読書会》（Aグループ）

□ テキスト 「国民の三大義務」

□ 指導 細川三郎顧問

□ 進行 山路直美世話人

・ 自分の住んでいる所を守るために何か出来ないかを考えることが大切。

・ 国家百年の計によって教育の中身も変わってくる。これからが大切

・ いじめ・不登校・引きこもり問題⇒支援する人が重要。
日本の国土をいかに守っていくかが大切。

・ 戦後教育の歪みを正そうとする人々の繋がりを結集して、民意で世の中を動かしていくことが大切。

・ 「使命なくして学びなし」教育の中身を考察する。
何の為に学ぶかを、子どもたちに伝えていきたい。

・ 権利のある教育。勤労の場にはかない現実がある。
自らその場に自発的に向かうことが必要。

・ 働き方改革が日本を滅ぼす。(掃除は雑事ではない)
教師は料理人であり、その腕次第で教育は変わる。

・ 歴史や道徳を大人が自ら学ぶことが大切。



《読書会》（Bグループ）

□ テキスト 森 信三先生『一語一会』

□ 指導 近藤宏枝世話人

□ 進行 三浦しげみ塾生

十二月一日

職業とは、人間各自がその「生」を支えると共に、更にこの地上に生を受けたことの意義を実践するために不可避の道である。されば職業即天職観に、人々は何と徹すべきであろう。

十二月五日

一生を真に充実して生きる道は、結局今日という一日を、真に充実して生きる外ないでしょう。
実際「二日が一生の縮図」です。

十二月七日

人間というものには情熱なくして偉大な仕事のできるものではありません。真に生きた思想というものは、偉大なる情熱が、しだいに清くところろに生まれるものであって、情熱を伴わない理性というようなものは、真の理性ではなくて、単にこざかしい理屈にすぎないものです。

十二月二十二日

逆算的思考法とは、人生の終末への見通しと、それから逆算する考え方をいう。だがこの思考法は、一人の人生にもならず、更に各種の現実的諸問題への応用も可能である。

十二月二十八日

一眼は遠く歴史の彼方を、そして一眼は脚下の実践へ。





歌唱 柴原啓司塾生



司会進行 小南昭雄塾生



講師紹介 中川千都子副代表



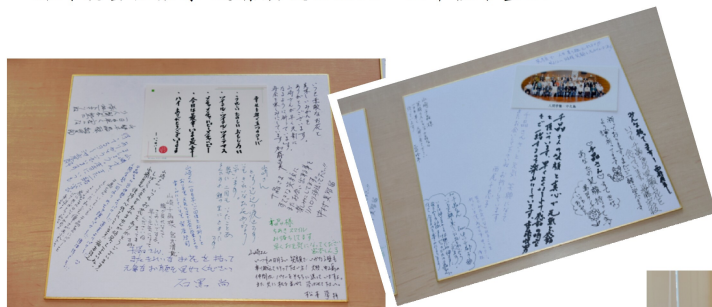
課外読書会指導 近藤宏枝世話人・田中樞子塾生



エッ!! サンタさん??
山路直美世話人



グループ討議進行
野依佐千子塾生



病氣療養中の山崎千晶さんへ、お見舞いと皆さまからの応援メッセージを携え12月20日に届けてまいりました。元気に微笑んで迎えていただきました。宮本



講師接待
左 川又タカ子塾生
中 講師 上甲 晃先生
右 宮本しん子塾生



講師接待
左 西尾千恵子塾生
右 三浦しげみ塾生

おそらくはこれが山頂における最後の映像となるであろうと思われるかもしれません。というのも、前回・前々回に比べて大変な困難を痛感しましたからです。

まずは浅間神社の奥の宮に参拝し、無事登拝のおん礼を言上いたしましたあと、七十歳以上の方による記名簿に、住所・氏名・生年月日を記帳いたしました。そのあと、記名簿をめくって八十歳以上の方を探しましたが、ほんのわずかでした。

ところで塚本様の携帯を活用させていただき、まずは自宅の家族あて、無事登拝できましたことを報告し、安心していただきました。そして夜の宿泊所の9合目まで下ってきたのですが、その途中足を滑らせて瓦礫の角で左脛をすりむくということもありました。

いよいよ天のおさしずを感じざるを得ませんでした。

機関紙「岩竹」平成22年9月掲載より

森信三先生から『悟竹書話』についてお聴きしたことがあり、かつて悟竹書展に同行させていただいたことがあります。もとより、私などには、書のよさなど解するものでなく、何か変わった書体であるなど感じたぐらいのことでした。ただ書聖「中林悟竹」の名前は心に刻まれているようです。

ところで去る八月十七日、道友塚本恵昭様の同行を得て、三回目の富士登拝を果たすことができました。そして塚本様のカメラによりしかと撮影いただき、その碑の前で二人並んで記念の写真を撮っていただきました。



「鎮国の山」

《大悟徹底》

寺田一清先生寄稿録

霊峰富士の頂上に、中林悟竹の書による雄渾な碑が建立されています。明治三十一年（一八九八）戊戌の年、肥前の国中林悟竹が始めて富士山に登頂せられたときのもので、七十二歳の書毫と刻まれています。となればはや二〇〇年の風雪に耐えて、山頂に鎮座ましまして、日本の国の安泰を祈念しつづけておられるともいえましょう。

《人間学塾・中之島》

■平成2年2月カリキュラム

＊日時 2月8日(第2土曜)

午後1時～5時

＊場所 大阪大学中之島センター7F講義室703
＊講師 横田南嶺老師(臨濟宗円覚寺派管長)

「禅の教えに学ぶ」

1956年和歌山県新宮市生まれ。

1983年筑波大学に入学。東京都文京区白山道場龍雲院 小池心叟老師について出家得度。1987年筑波大学卒業、京都建仁寺僧堂、円覚寺僧堂にて修行。円覚寺足立大進老師に嗣法。2010年臨濟宗円覚寺派管長に就任。『祈りの延命十句 観音経』『二度とない人生だから今日一日は笑顔でいよう』など著書多数。

《お薦め書籍》

『坂村真民一日一詩』

坂村真民 著
藤尾秀昭 編



出版 致知出版社
頒価 二二〇〇円(税別)
ISBN-13 978-480912237

詩に生き詩に死す」と、97歳で亡くなる最晩まで、一日も休むことなく詩業に命を燃やし続けた坂村真民氏。その生涯で遺した詩は1万篇以上にも及びます。その膨大な詩作の中から心に深く沁み入る366の名詩を精選。長年、真民詩に魅せられ、人生を歩む道標としてきた藤尾秀昭氏が渾身の力を込めて編纂に当たったとのこと。「先生の魂の遍歴をも読み取っていただきたい」との思いから、詩は原則として年代順に構成されています。

《芳信抄》

山下武彦様(埼玉県児玉郡)

新聞等で大きく報じられた今上天皇のご即位にまつわる数々の儀式や皇室の歴史等でしたが、人間学塾では神宮の研究所にてその道に携われる方々に学んでの研修を深められたのは、さすがと思いました。今後の継承のあり方を巡って男系女系等心配がなされておりますが、私はこれまでの流れを引き継いでいただきたいと思っています。

「大悟徹底」では寺田名誉顧問の笑顔と「明瞭・活力・前進」掲げてお元気をアピールしていただいたことを有り難く思います。

大出雅一様(埼玉県川越市)

居ながらにして、これだけ素晴らしい講演に接することの有難さを噛みしめております。研修会もご盛会で何よりでした。

令和の世になり、世界に誇る皇室の存在を再認識しました。日本人の本来の性は、一つに自分のことは後にして、人を先にするという中山様のお言葉に目を開かされました。今日これと逆の現象が多くありますが、反省して本来の日本人に戻らなければと思います。

「幸せは満ち足りたものの中にあるのではなく、足りないものの中にある」タクヤくんのこの言葉から、力をいただきました。

加藤秀夫様(宮城県名取市)

人間学塾での今回の御代替わりの年に当たって、皇室と伊勢神宮のこと、歴史的に解説嬉しく思いました。

武田数宏先生のJ・Rジャヤワルダナ氏のサンフランシスコ講和会議での「愛によってのみ憎しみは滅せられる」の訴え、感動しました。

桂 誠司様(愛媛県四国中央市)

武田数宏先生のお話は、泣けてきますね。お母さんより一日早く死にたい娘さん、娘さんより一日長生きしたいお母さん。大変切ないお話しで、身につまされます。

坂部智一様(愛知県豊田市)

寺田一清先生のメッセージ「明朗・活力・前進」感謝申し上げます。

私の感動語録は、「幸せはこの僕のこの体の中にある。幸せは満ち足りたものの中にある」五歳の時にこれほど甘えがなく、生きることをへのメッセージの詩を書けることに、気づきを与えていただけました。難病だからなのでしょう。文句、不満と逆の世界です。

柴田久美子様(なごみの里)

たくさんの方々のお導きがつまった中之島ニュースに支えられた一年でした。

来る年もよい年でありますように心からお祈りしています。

~~~~~

鍵山秀三郎先生におかれましては、ご体調すぐれないなかから、お電話にてご連絡をいただきました。体調の早期ご回復を中之島塾生一同お祈り致します。

## 《告知 案内》

### ◇読書感想文刊行のお知らせ

別紙案内通り読書感想文八号を刊行いたしますので、各位原稿の提出をお願い致します。

### ◇春季宿泊研修を左記の通り実施致します

万障繰り合わせ頂き、ご出席の程お願い致します。

○日程 3月14日(土)～15日(日)

○会場 関西セミナーハウス(京都)